

# 平成 31 年 度

## 開星高等学校入学試験問題

(第 1 限 9 : 10 ~ 10 : 00)

### 国 語

#### 注 意

- 1 「始め」の合図があるまでは、開いてはいけません。
- 2 問題は全部で 4 題あり、7 ページまでです。
- 3 「始め」の合図があったら、まず、解答用紙に受験番号を書きなさい。
- 4 答えは、すべて解答用紙に書きなさい。
- 5 「やめ」の合図で、すぐ鉛筆をおき、解答用紙を裏返しにして机の上におきなさい。

【第一問題】

次の文章を読んで、下のそれぞれの問いに答えなさい。

(問題作成の都合上、一部を改変した)

(注)〔サミュエル・ハンティントン〕Ⅱアメリカ合衆国の国際政治学者。  
〔オーバースペック〕Ⅲ機械などが必要以上に高性能なこと。  
〔ネガティブキャンペーン〕Ⅳ他社製品の欠点を強調して自社製品を売り込む活動。

問一 傍線部①②の漢字はその読みをひらがなで書き、カタカナは漢字で書きなさい。

問二 空欄Ⅰ・Ⅱに入る語として最も適切なものを次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア だが    イ 例えば    ウ あるいは    エ ところで

問三 波線部①「文明を創り出し、輸出できるような国」とはどのような国だと司馬遼太郎は考えているか。文中から十五字以上、二十字以内で抜き出して答えなさい。  
(句読点は含まない)

問四 波線部②「川ぞこを転がりながら丸くなった石のように、えてしてつまらないものであり味気ないもの」とは文明のどのような点を言っているか、文中の語を使って三十字以内で説明しなさい。  
(句読点も一字に数える)

問五 二重傍線部 a s d の中で他と品詞が異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

問六 波線部③「この手の質問」とはどのような質問か、文中の語を使って三十字以内で答えなさい。  
(句読点も一字に数える)

問七 波線部④「あれは、日本人だからできるんですよ」とあるが、「ライバル会社」がこのように言う意図は何か。最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 日本人の特殊性を強調することで、商談の相手として問題があることを理解させるため。

イ 海外で新幹線を採用しても、日本人のように運用できないことを強調するため。

ウ 日本人の新幹線運用能力をあえて賞賛することで、自分の立場を保つため。

エ 新幹線の性能の高さを認めたくなくて、自分たちの製品も負けていないことを示すため。

問八 本文の内容として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 文明は国を超えて広く伝わるが、文化はアラビア文字のように特定の国だけで通用するものだ。

イ 文化は民族など特定の集団だけにあてはまるもので、それが文明へと発展することはない。

ウ 日本の新幹線が輸出に苦戦するのは、日本人がネガティブキャンペーンに対抗できないためだ。

エ 時間の正確性に徹底的にこだわるのは日本特有の文化であり、他の国にも通用することではない。

【『下り坂をそろそろと下る』(平田オリザ)による】

【『桜風堂ものがたり』（村山 早紀）による】

— 3 —

問一 傍線部㉑㉒の漢字はその読みをひらがなで書き、カタカナは漢字で書きなさい。

問二 傍線部①「そんな医師」とはどのような医師なのか、最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 医師としての確固たる信念を持ち、患者に対して誠実に向き合おうとしている医師。

イ 医師としての仕事に充実感を感じ、迷うことなく順調に仕事をしてきたことを周囲に感じさせる医師。

ウ 医師としての自分に満足し、とりたてて新しい事に向き合う必要を感じていない医師。

エ 現実感のない程の理想的な対応をして患者の心に入りこもうとする得体の知れない医師。

問三 傍線部②「もつとずっと昔から、背負っていたもの」とは何か、解答欄に合わせ、「……という思い。」で終わる形で文中から二十五字以内で抜き出して答えなさい。（句読点も一字に数える）

問四 空欄[A]に入る言葉として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 滑った

イ 途切れた

ウ 尖った

エ 過ぎた

問五 傍線部③「脳と心は別物」という医師の言葉を踏まえ、主人公「百原一整」の足の痛みの原因を五十字以内で説明しなさい。（句読点も一字に数える）

問六 傍線部④「魔法使いが語るような言葉」と同じ意味で使われている表現を文中から七字で抜き出して答えなさい。（句読点は含まない）

問七 傍線部⑤「礼儀として頭は下げたけれど、お礼の言葉は口にしなかった」のはなぜか、最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 心因性のものだという見立てに従い、自分の足の痛みを解消しようとはしない医師の診断に納得がいかず腹を立てているから。

イ 詳しい検査の結果が出るまでに、病気ではないと診断を下す医師の傲慢な態度に嫌気がさしたから。

ウ 痛み止めすら処方してくれない医師の怠慢な仕事ぶりに呆れ、病院に頼らず自分で解決しようと強く感じたから。

エ この診断の結果を受け止めたものの、足の痛みをどうすることもできない事実戸惑い、不安を感じたから。

【第三問題】次の古文を読んで、下のそれぞれの問いに答えなさい。

天竺てんたくに絵師ありき。伽毘羅城かびらじょうより請用を得て行きぬ。今日今日と招きを受けて行った

おもふほどに、十二年を送る。絵師が妻子待ちかねて、絵師帰りにて

かへさんとて、人の物をおほく借りてけり。絵師、十二年といふに、

金三十兩を得て帰りける道に、堂どうのありけるに、仏に箔はくを押さむ

とて、金を勧めけるに、「家に行きたらば、今生の宝にてこそ

あらんすれ、仏にまゐらせて、生生世世の宝をなさん」と思ひて、

三十兩ながら仏にまゐらせてけり。

家に帰りたれば、妻子よろこびて、「汝なんじ帰りにてかへさんとて、お

ほく人のものを借りたり。なにか持て来たる」ととへば、ありの

ままに語りければ、妻子おとこ、大いに怒りをなして、「面おもてあかく、息あ

つくして、「我、今生を主の為にまじはかされなんとす。一人ひとまじ

ふべきにあらず」とて、検非違使けんびいしに告げて、公おみやげに申しければ、事

の有様をめし問はれるに、ありのままにぞ申しければ、「心おほ

きなるものなり」とて、罪はせずして、一国の主くにぬしになされけり。

【宝物集】による

- (注) (天竺) || インド。  
(伽毘羅城) || 城の名称。  
(検非違使) || 警察や裁判に当たる役人。  
(公) || 国王。

問一 傍線部⑦・⑧の読み方を現代かなづかいで書きなさい。

問二 二重傍線部A・Bの主語を次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア 絵師  
イ 検非違使  
ウ 妻子  
エ 公

問三 傍線部①・③の口語訳として適切なものを次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 「まゐらせて」  
ア いただいて

イ 差し上げて

ウ お参りをして

エ 申し上げて

- ③ 「まじふ」  
ア 悩む

イ 探す

ウ 世話をする

エ 送る

問四 傍線部②「妻子、大いに怒りをなして」とあるが、「妻子」は絵師のどのような行動に対して怒ったのか、文中より十五字で抜き出しなさい。(句読点は含まない)

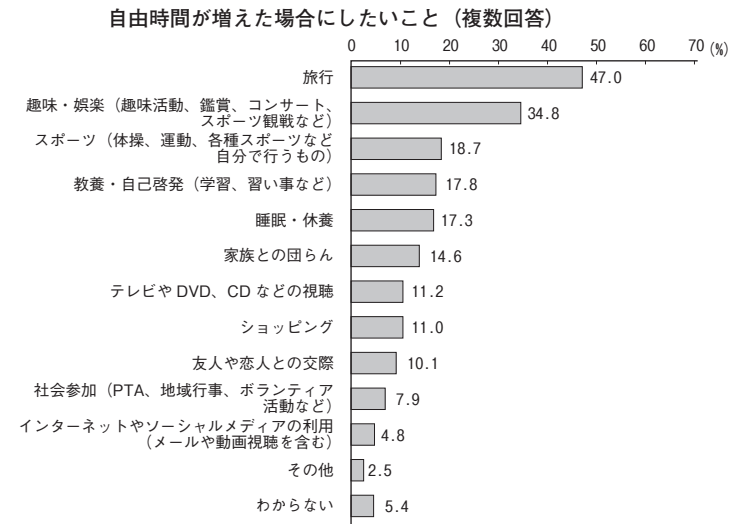
問五 傍線部④「一国の主になされけり」について、なぜ「公(国王)は「絵師」を「一国の主」にしたのか、最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ひたすら仏を敬い、目先の欲にとらわれなかったから。  
イ 請われるままに金を寄進するお人よしだったから。  
ウ 仏道修行のために妻子を犠牲にする程の熱意を示したから。  
エ 仏法のありがたさを世の中に広めたから。

問六 この説話の主題を、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 金に勝る宝はないこと。  
イ 妻子への愛情の大切さ。  
ウ 信仰心によって報われること。  
エ 国へ忠義を尽くす喜び。

【グラフ】



【表】 自由時間が増えた場合にしたいこと（複数回答）～年齢別 上位5項目～

	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1位	旅行 51.8	旅行 52.8	旅行 54.1	旅行 56.1	旅行 47.5	旅行 32.7
2位	趣味・娯楽 35.5	趣味・娯楽 37.5	趣味・娯楽 34.6	趣味・娯楽 35.9	趣味・娯楽 36.6	趣味・娯楽 31.3
3位	睡眠・休養 23.7	睡眠・休養 23.3	教養・自己啓発 22.4	スポーツ 20.1	スポーツ 20.1	テレビやDVD、CDなどの視聴 14.1
4位	友人や恋人との交際 21.3	スポーツ 23.2	スポーツ 21.4	睡眠・休養 19.3	教養・自己啓発 17.8	睡眠・休養 14.0
5位	スポーツ 20.5	教養・自己啓発 21.9	家族との団らん 19.9	教養・自己啓発 18.8	睡眠・休養 13.0	教養・自己啓発 12.6

【第四問題】 次のグラフ・表を参考に、下の①～④の指示に従って意見文を書きなさい。

【国民生活に関する世論調査】（内閣府・平成二十六年）による

① あなたは自由になる時間が増えたとしたら、自分の生活を充実させるため、どのようなことをしたいですか。  
グラフ・表を踏まえて自分の意見を理由とともに述べなさい。

② 字数は百二十字以上、百五十字以内とする。  
（句読点や記号も一字に数える）

③ グラフ・表のどちらか、または両方の内容を取り上げることもよい。ただし数値は取り上げても、取り上げなくてもよい。

④ マス目から書き始め、段落は設けないこと。

